

ロウバイ

ロウバイは江戸初期中国中部から渡ってきました。臘月(旧暦12月:現代の1月)に咲くことから臘梅という字が使われておりましたが、日本に入って、蜜蝋の蝋細工に似ていることから虫偏に変わったようです。素芯ロウバイは明治時代にやはり中国から渡ってきており、素は白を意味して芯が白色だということです。(和)ロウバイは芯が赤紫色をしており花は小さく、あまり見栄えはよくありません。満月ロウバイは埼玉県川口市安行の植木屋さんが2002年品種登録した花です。最初の頃は中心の周りが茶色の輪がある花が出回りましたが、その後、素芯を改良して形が丸く大きく透明感のある花に変わってきております。その他、ウンナン・アメリカ・ナツロウバイ等があります。ロウバイの実はミノムシの形でぶら下がっており、中に小さな種が入っており、これを植えると4~5年で花が咲きます。挿し木は6月頃に10~15cmの枝を挿せば根が出てきます。

この木は全体を扇形にし、古くなった木は切り、補充にヒコバエを残してやるようにします。写真撮影は花芯の潰れていないのを探し、それをメインに背景に実や葉やつぼみや土蜂の巣等を入れ、逆光で枝が透けて見えるように青空に抜けて撮れば最高です。

